

ショートコメント vol.48 (2015年12月22日)

テーマ：訪日中国人客数の推移に変化の兆し
～来年2月（春節）の動向が一つの試金石に～

（訪日中国人客数の増勢が鈍化）

日本を訪れる中国人客の数については、前年を上回る状況が続いているものの、ここへきてその増勢が鈍化している（図表1）。鈍化といっても増加ペースは他の国々を上回っており、「絶好調期間」が終わったというレベルなのかもしれない。ただし、鈍化のタイミングが上海株の暴落（8月）以降でもあり、楽観視しすぎるのも禁物とみられる。

関西でも同様の動きがみられ、特に直近の9月は全国を下回る伸び率となっている（図表2）。昨年末以降、全国を上回るペースが続いていただけに、今後の鈍化ペースが気になるところである。

（百貨店の免税売上にも影響か）

一方、百貨店の免税売上も前年比の増加率が鈍化しているが、これも見方が難しい（図表3）。というのも、免税対象商品の拡大（昨年10月）から1年が経過した影響が大きいからである。ただし、百貨店からは夏以降の悪化を指摘する声が聞かれるなど、中国関連の影響が出ていることは間違いない。百貨店の免税売上はインバウンド消費の代名詞でもあるだけに、こちらも楽観は禁物である。

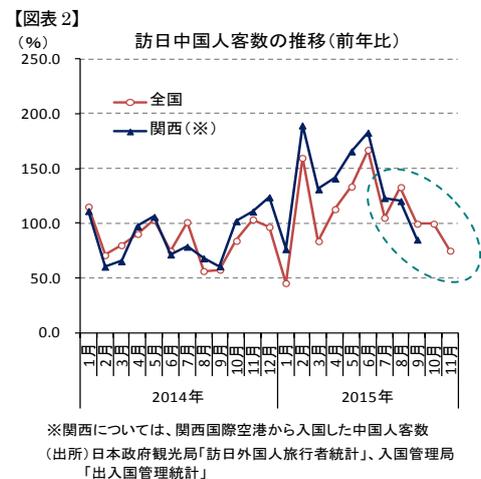
直近の11月（全国）は引き続き増勢の鈍化がみられるが、前年の11月が156.4%増と大きく伸びたことを考えれば、決して悪い数字ではない。もちろん良いとはいええないものの、今のところは大きな鈍化はないといえそうである。

今後はさらに前年が大きく伸びた時期に入るため、実態が判断しにくい状況となる。場合によっては前年割れとなる月も出てくる可能性がある中、その推移に注目が集まる。

（来年2月の春節が大きな試金石）

一方、訪日中国人客数の推移については、来年2月の春節が一つの試金石になりそうである。今年の春節はまだ記憶に新しいが、中国人客は前年比で2.5倍以上と大幅に増え、その後の激増傾向にもつながった。

足元の推移をみるかぎり、来年も同じように増えるとは考え



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

にくく、伸び率はこれまでに比べて低い水準になるとみられる。前年を下回る可能性は低いとしても、どの程度の増勢となるのかが、今後のトレンドを占うことになろう。

「爆買い」という言葉が定着したのは今年の春節からであるなど、春節商戦への注目度は年々高まっている。良くも悪くも目立つだけに、仮に良くない結果となった場合は、企業や消費者のマインド面への影響にも注意が必要となりそうである。

本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。